

焼酎原料用かんしょ栽培こよみ

平成 21 年産版

月旬 作型	月	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
普通マルチ 栽培	主 要 作 業									

土壤消毒、堆肥散布
植付け
収穫

品 種：コガネセンガン

1. ほ場準備

- ・ 耕土が深く、通気性と排水性の良い膨軟な土のほ場を準備する。
- ・ 植付 1 ヶ月半前までに完熟堆肥を 2 t/10a 施用する。
 土壌の酸性が強いほ場は、堆肥とあわせて「炭酸カルシウム肥料」を施用する。(pH 5 ~ 6 が適正)
 土壌の酸性が強く、リン酸も少ないほ場では、「BMようりん」を施用する。
- ・ 耕起、砕土については数回を十分行う。耕作放棄地を活用する場合には、5 回程度耕うんする。
 ネコブセンチュウ抑制のため植付ほ場にバスマイド細粒剤やガスタード細粒剤を混和したほ場では、ガス抜きのため耕うんする。

2. 施肥・耕耘

- ・ 畦立て・マルチ前に、基肥とダズバン粒剤を土壌混和する。
- ・ 基肥施肥量は、「施肥のめやす」に基づき土質や前作物など、土壌の肥沃度に応じて加減する。

【施肥のめやす】

単位：kg/10a

養分が不足するほ場は、以下の資材を加えて施用

肥料名	施肥量	成分 (%)	不足する養分	肥料名	施肥量めやす
甘しょ 2 号	80	窒素 リン酸 カリ 6 - 8 - 14	カリ	塩化カリ	10 kg/10a

【ダズバン粒剤の農薬使用基準】

薬 剤 名	作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
ダズバン粒剤 <劇物・魚毒C類相当>	かんしょ	ハリガネムシ類 コガネムシ類	9 kg/10a (3kg × 3袋)	植付前	2 回以内
使用方法	全面土壌混和	備考	薬剤は、均一に散布し、丁寧に耕うんする		

3. 畦立て・マルチ

- ・ 畦立て時に黒マルチ (95 cm 幅) で被覆し、植付け予定の 1 週間前までに行い地温を確保する。
- ・ 畦幅は畦立て・収穫機械にあわせた畦幅で作畦し、植付け苗数は株間で調整する。
 トラクターを利用する場合は、できるだけ畦幅を狭くするよう努める。

【植付苗数】

畦幅 (cm)	株 間 (cm)	
	約 3,000 本/10a	
90	38	~ 36
100	35	~ 33



2007.5.11 機械実演会 畦立

4. 雑草対策

畦間に除草剤を施用

かんしょの除草剤

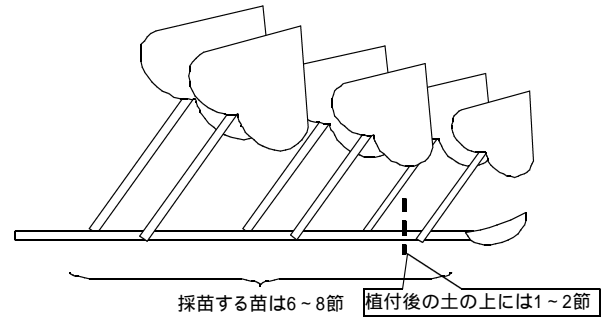
除草剤名	適用雑草名	使用時期	10a 当たり使用量 (希釈推量)
トレファノサイド粒剤 2.5	畑地一年生雑草 (ツユクサ, カヤツリクサ, アフリナ科, キク科を除く)	植付直後	3 ~ 4kg

施用量は畦間のみであるので 1/2 程度の分量とする

5. 植付け 早進化を目指す

梅雨期の本格的降雨前の 6月中旬までに2番苗の植付けを終える。

- ・採苗（苗採り）の10～7日前から外気に慣らし、
 灌水を徐々に減らして丈夫な苗にする。
- ・採苗は、植付当日～前日に行う
（採り置きは5日間以内）。
 苗の基部2～3節（地際5～6cm）残して、
 7～8節の苗を取る。
- ・採苗後は、苗床に追肥（硫安 50 g/m² または
 尿素 30 g/m²）し、十分灌水し、2番苗を伸ばす。

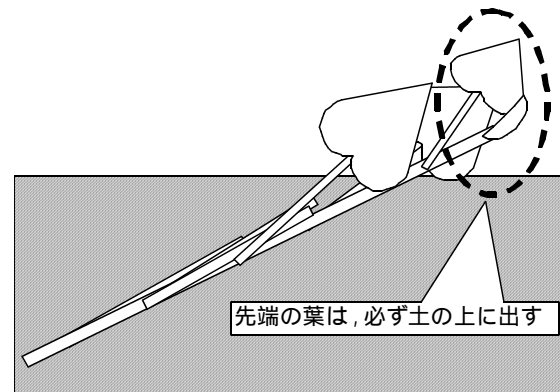


- ・黒斑病予防のため、苗消毒を必ず行う。

【苗消毒農薬の使用基準】

薬剤名	作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ベンレート水和剤 <普通物・魚毒B類相当>	かんしょ	黒斑病 つる割病	500倍 20 g/10 [㎡] (～1000倍)	植付前	1回
使用方法	20(～30)分間 苗の基部(採苗した付け根)10～15 cmを浸漬。				
備考	希釈薬剤は当日のみ使用。薬液が減ったら、使用していた薬液を廃棄し、新しい薬液を使う。				

- ・葉の先端がマルチから出るまで苗を斜めに植え込む。
 土中に、4～6節が入る。
- ・活着をよくするため、植付後、株元を押さえ、
 苗と土が触れるようにする。
- ・植付けはできる限り夕方、もしくは曇天日に行う。
 ほ場が乾燥している場合は植付後灌水を行う。



6. 栽培管理

- ・病害虫の発生に注意し、発生がみられる場合は適時薬剤防除を行う。

【植付後に使える殺虫剤の農薬使用基準】

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数 使用量	使用時期	使用回数
トレボン乳剤	ナカジロシタハ アブラムシ類、ハスモンヨトウ	1000倍 -	収穫7日前まで	3回以内
トレボン粉剤DL	ハスモンヨトウ ナカジロシタハ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
ディプテックス乳剤	ナカジロシタハ、ハスモンヨトウ、 イモガ	700～1000倍 -	収穫14日前まで	4回以内
ディプテックス粉剤	ナカジロシタハ、ハスモンヨトウ、 イモガ	4～4.5kg/10a	収穫14日前まで	4回以内
アタブロン乳剤	ハスモンヨトウ	2000倍 100～300L/10a	収穫7日前まで	5回以内

7. 収穫

- ・植付け後150日から収穫するが、収穫は晴天時に土ができるだけ乾いた状態で行う。
- ・霜が降る前に収穫を終える。

8. 種いもの選別

- ・種いもだけでなく、出荷用いももその後の腐敗を防ぐため晴天時に収穫する
- ・無病で形のよいいもで、1個重200～300g(中程度のもの)を選別する。
- ・傷いも、ほ場で冠水したいも、ほ場で霜にあたったいもは、除外する

9. 種いも貯蔵の条件 貯蔵温度 15 程度、貯蔵湿度 80～90%

- ・貯蔵初期(2～3週間は、いもの呼吸熱により内部から温度高まる)には高温に、
 冬季には低温にならないよう留意する(貯蔵温度が10 以下になると腐敗が進む)。

10. 種いも貯蔵の方法 防空壕、自宅床下いも釜などでの貯蔵。ねずみ侵入と雨水浸水注意

- ・貯蔵前に1～2日種いも選別を行い、収穫後すぐに貯蔵しない
- ・いも内部が傷むと貯蔵性が劣るため種いもを手荒に扱わない